

地歴公民 (地理)

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

論述、記述、選択

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・**やや減少**・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴

大問は 3 題で、出題分野はシベリアの自然環境、人口と都市、東南アジア地誌であり、昨年の地図と地理情報、資源と産業、地誌とは異なる。図表の読み取り問題と論述問題が中心で、問題分量は一般的である。

その他トピックス

昨年と比べると問題分量はやや減少し、試験時間内で余裕をもって取り組めるようになった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択 記述 論述	シベリアの自然環境	海氷面積が最も少なくなる時期、シベリアの自然地形名、北半球の大陸に存在する安定陸塊の名称、最終氷期の最寒冷期の時期、雨温図からケッペンの気候判定、シベリアのタイガが寒冷で乾燥した気候であるにもかかわらず成立している理由の論述、ソ連の正式名称、ソ連の崩壊した年号、アジア系の民族が主要な人口を成している広大な共和国の名称、寒冷な気候に適応した生業などが問われた。自然地形や地名の記述問題は非常に難度が高い。	やや難
II	選択 記述 論述	人口と都市	1955 年と 2015 年の人口 100 万人以上の都市数と両年の都市人口率の表から地域名判定と都市人口率の変化の特徴の論述。アジアの各地域の都市人口率の推移から地域名の判定と判断理由の論述。発展途上国の大都市の生活環境の劣悪な居住地区の名称とそのような地区が形成される要因の論述。各都道府県の 20 年ごとの人口増加率を示した図から 80 年間の人口分布の変化についての論述。郊外 (1977 年・1997 年) の図より、土地利用の転換が虫食い状に起こる現象の名称とこの現象により住民の生活に関わる問題についての論述。いずれも一般的な論述問題で取り組み易いが、分量が多い。	標準

地歴公民(地理)

III	選択 記述 論述	東南アジア地誌	1 人当たり GNI、人口、全人口に占める主な宗教の信者の割合の表から国名判定、3 か国における輸出額のグラフから国名判定、1980 年・2000 年・2018 年のコンテナ取扱量の世界上位港の表から指定語句を用いて推移の説明の論述。マレーシアの先住民の地位向上を図る目的で実施された政策の名称と社会経済的背景に関する論述。マレーシア、インドネシアにおけるアブラヤシ農園の開発を巡る問題についての論述。タイにおける工業化に関するリード文の空欄補充。東南アジアの 5 か国におけるコーヒー豆生産量の推移のグラフからベトナムを選び、同国の生産推移を経済政策の転換と関連させて論述。 いずれも一般的な論述問題が中心で取り組み易い。	標準
-----	----------------	---------	---	----

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

自然、社会、産業などの重要テーマについて、教科書レベルの知識をもとに分布図や統計表を読み取らせて論述させる問題が中心である。そのため、地理用語や地名とその地図上の位置などの地理の基本的な知識だけでなく、自然は成因から、社会・産業は背景から説明できるような地理的見方・考え方を身につける必要がある。教科書をよく読みこなし、参考書などで補足しながら、地理用語や地理的事象を100～200字程度の文章で説明する練習を繰り返し行うことが効果的である。描図問題は、グラフの作成や地図への記入などのほか、白地図や地形図の作成なども出題され多彩であるので、地図帳をよく見ておくとともに過去問の研究もしておくといい。今年は地形図の読図は出題されなかったが、地形図の読図は、難易度の高い問題が多いため、過去問を見て傾向を把握し、対策を行っておきたい。時事問題も出題されたことがあるので、機会があれば新聞やテレビのニュース特集などを見て、世界で起こっている出来事や問題などに興味・関心を持っておこう。